

繪本  
敵討

岩見英雄錄

五

遠

2509

35-7





選  
2509  
卷 35-7

日本後仇英雄録前編卷之五

目錄

敦浪慈傷痛死

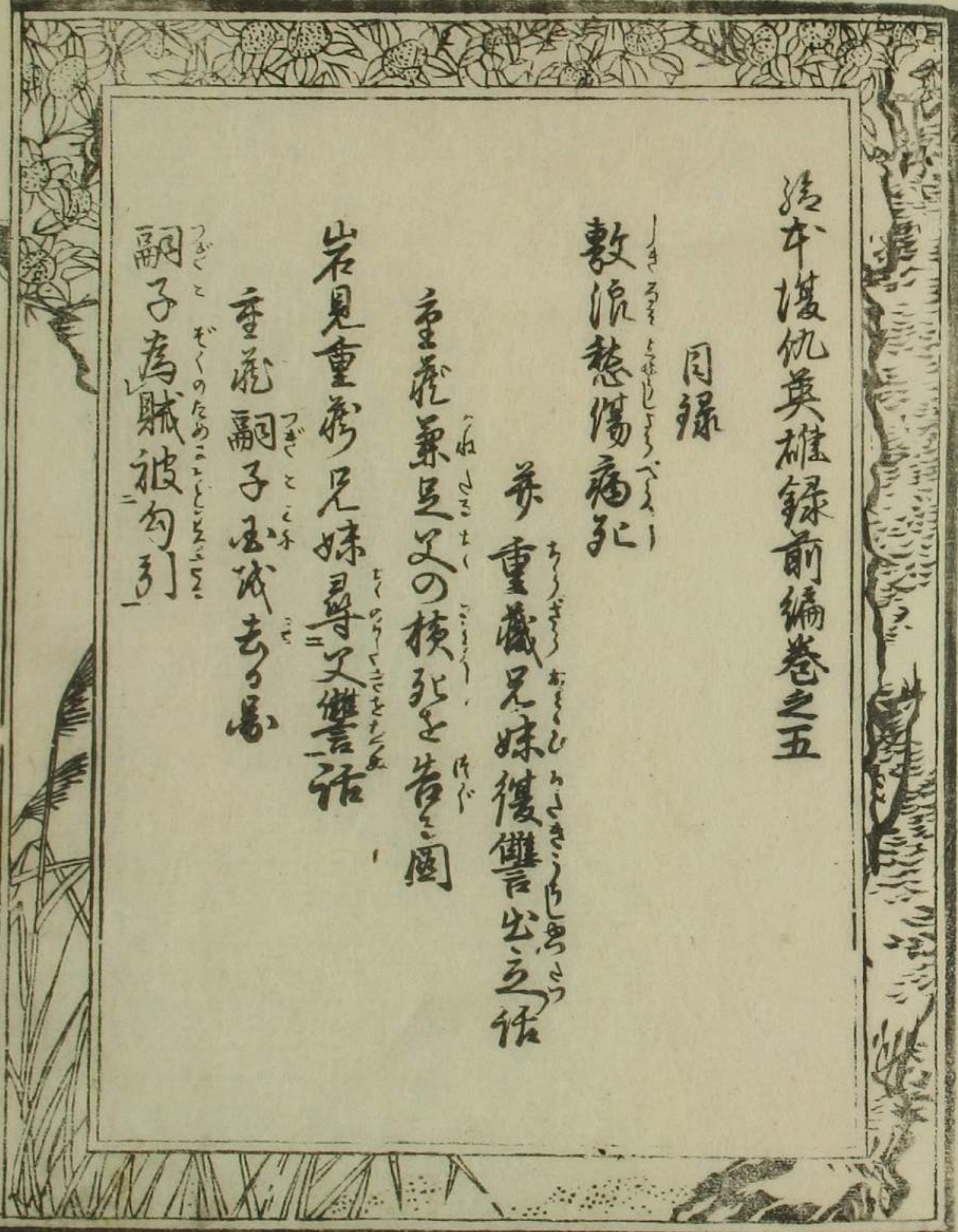
兼重藏兄妹復讐出之佐

重藏兼足父の横死を告ぐる

岩見重藏兄妹尋父讐話

重藏嗣子玉成去る事

嗣子為賊被勾引







繪日本復仇英雄録前編卷五

數浪愁傷病死

兼重花見妹復仇出立話

岩見屋の妻が毒賣流ち。半月斗己前とう時疫とていふ。  
 執元吉の流して九死一生小及びりて。婦子十花妹つら子  
 其奈品役の侍女如女を復仇病して有らふ。今日いふ十  
 大忠つ言見方以お付小程。未別より堂上候一夜の二更過  
 了。近海くされも十花大つ不付まひ。小僕小令正己不違ふ事  
 せん。まゐるわしも門の戸を打たさる。いふ。おのあつらひ  
 ろう。めし。小僕小令正己急門内めりせり。あつらひ。小十花のあつら  
 成ん。小僕をうさる。いふ。その何支のい用。さう。小十花のあつら  
 まじ中。同。小僕をうさる。いふ。その何支のい用。さう。小十花のあつら

繪日本復仇英雄録前編卷五

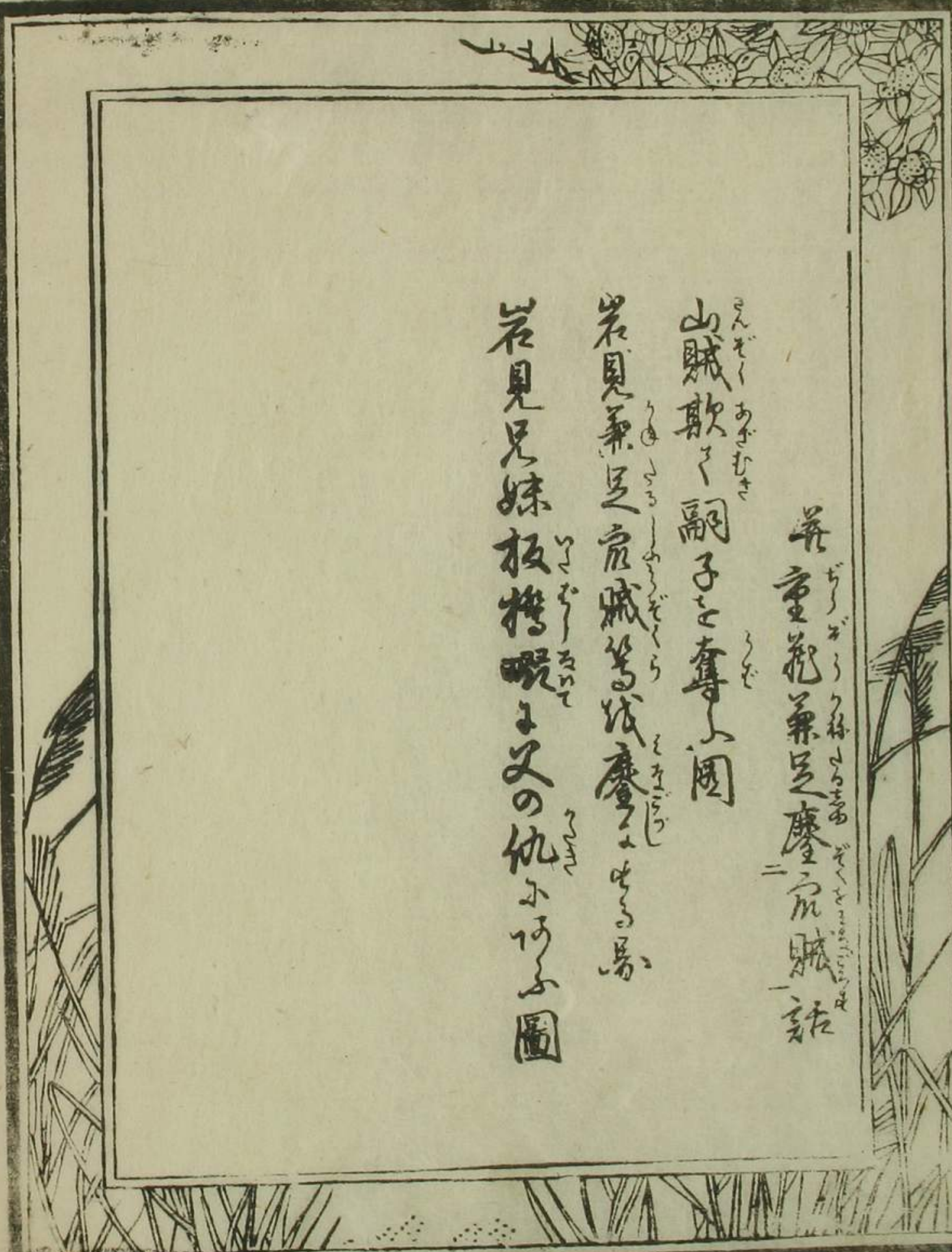


兼重花見妹復仇出立話

山賊欺く嗣子と奪ふ團

岩見兼重屋賊等成慶とていふ事

岩見兄妹板橋暇よ又の仇小つら子圖



戸目









重孫父の  
 たいご母  
 つけさ  
 図

各所并太金取新巻五















長九郎維新前編卷五



十花  
秋の  
見時  
上  
付  
目づ  
あ

長九郎維新前編卷五









素奉之鳥... 例年十月... 我今は... 國より... 遠く... 書字山... 楽一... 徳伊勢加鐘前編卷五

宮寺も... 傾け... 聖人... 山寺... 寺... 聖人... 聖人... 徳伊勢加鐘前編卷五



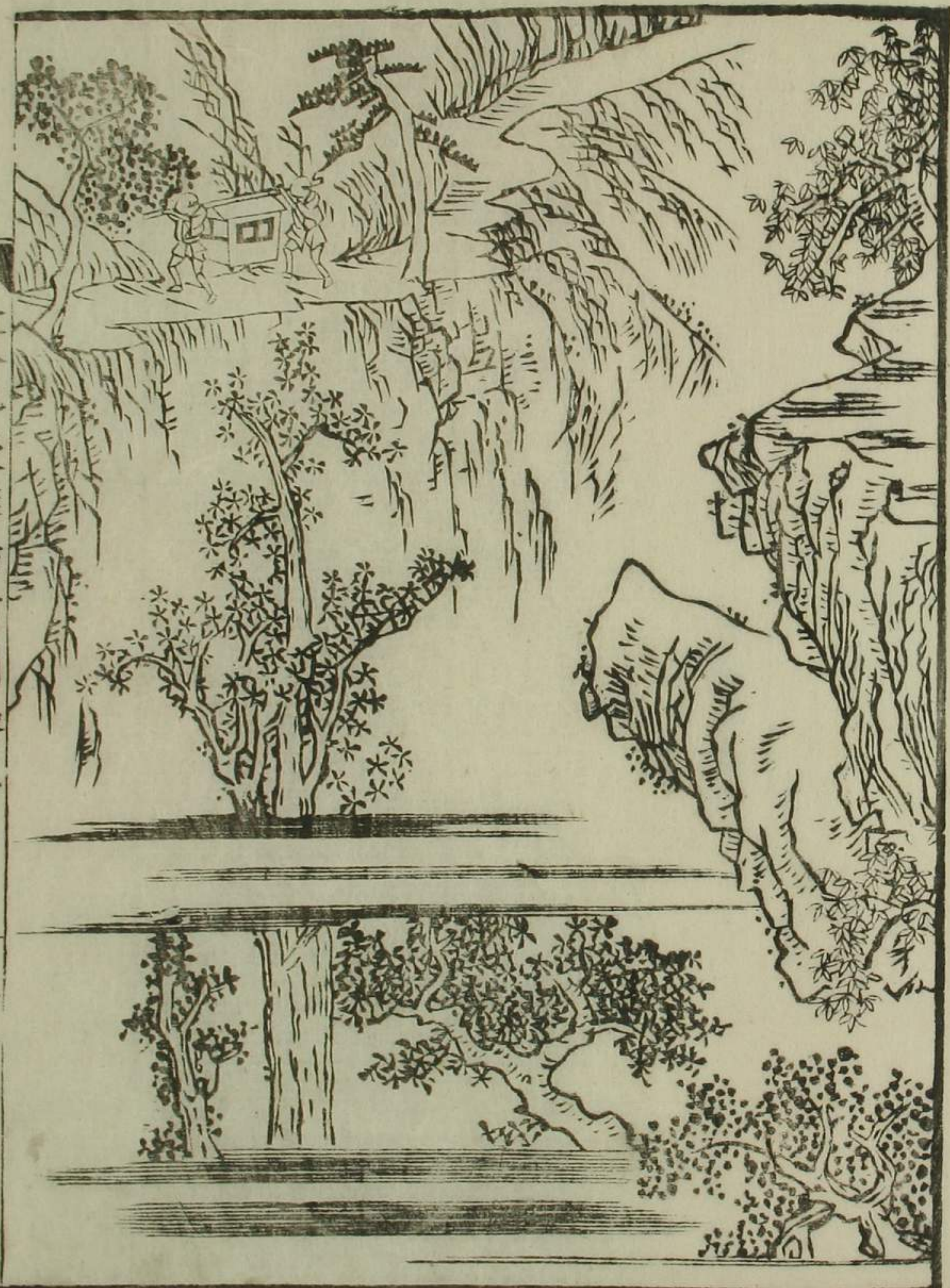
うらまへに時水縁の秋よりそとて大津波の浦に大山城を築き  
 加美入を伐那の城下とて別とて心成死す。死するを任後成工が  
 乃ふ。その縁の縁を幸其字もはてしなく。かて嗣子のまご二はの弱  
 女の習ひぬ縁の縁に道にうた山成てとてりゆい。いと痛め  
 くと乃葉ゆりど。見す飛ひ公でけども母が心中に慕い中。治癒  
 けり。いと信及高任を過りて。我も嶮き山成とてりゆい。いと痛め  
 と山成とて。信及高任を過りて。我も嶮き山成とてりゆい。いと痛め  
 杖成停ち。杖成痛りゆ。杖成。いと痛め。いと痛め。いと痛め。  
 嗣子の成被踏引。 并十花交ま雲城條  
 岩見十花と。妹つづ子骨りて。皆く懸居る如。膝の漢一挺の血  
 駕成昇て山道成り。とあり。十花は妹を志す。いと痛め。いと痛め。いと痛め。

とて。折紙の漢と目成見合とて十花は。いと痛め。いと痛め。いと痛め。  
 連の頃孔者おお。いと痛め。いと痛め。いと痛め。  
 け山の葉の百姓とて。いと痛め。いと痛め。いと痛め。  
 あつと。いと痛め。いと痛め。いと痛め。  
 代成と。いと痛め。いと痛め。いと痛め。  
 十花は。いと痛め。いと痛め。いと痛め。  
 何と。いと痛め。いと痛め。いと痛め。  
 峠止。いと痛め。いと痛め。いと痛め。  
 の人。いと痛め。いと痛め。いと痛め。  
 引流。いと痛め。いと痛め。いと痛め。  
 我徒。いと痛め。いと痛め。いと痛め。









續九尾惟錄行編卷五



續九尾惟錄行編卷五







未通女は他合ざる強情なる女高うう。さうもは強情の妻やと  
 の如く。膝の斗を好りれ。さうもは強情の妻やと。膝の斗を好り  
 荒れく。相腹抱ゆ。有合悦み。後さす。情の相ひ給  
 分。さうもは強情の妻やと。又妻の方へを立入る。却後妻は  
 加。さうもは強情の妻やと。さうもは強情の妻やと。さうもは強情  
 我。さうもは強情の妻やと。さうもは強情の妻やと。さうもは強情  
 お。さうもは強情の妻やと。さうもは強情の妻やと。さうもは強情  
 う。さうもは強情の妻やと。さうもは強情の妻やと。さうもは強情  
 変。さうもは強情の妻やと。さうもは強情の妻やと。さうもは強情  
 同。さうもは強情の妻やと。さうもは強情の妻やと。さうもは強情  
 ら。さうもは強情の妻やと。さうもは強情の妻やと。さうもは強情

見。さうもは強情の妻やと。さうもは強情の妻やと。さうもは強情  
 そ。さうもは強情の妻やと。さうもは強情の妻やと。さうもは強情  
 今。さうもは強情の妻やと。さうもは強情の妻やと。さうもは強情  
 し。さうもは強情の妻やと。さうもは強情の妻やと。さうもは強情  
 こ。さうもは強情の妻やと。さうもは強情の妻やと。さうもは強情  
 あ。さうもは強情の妻やと。さうもは強情の妻やと。さうもは強情  
 助。さうもは強情の妻やと。さうもは強情の妻やと。さうもは強情  
 全。さうもは強情の妻やと。さうもは強情の妻やと。さうもは強情  
 頼。さうもは強情の妻やと。さうもは強情の妻やと。さうもは強情  
 へ。さうもは強情の妻やと。さうもは強情の妻やと。さうもは強情  
 聖。さうもは強情の妻やと。さうもは強情の妻やと。さうもは強情



吐き出し安んずるのそしるはじ。いづれ世の引く後してと  
 せん。腰をうり山刀抜放しり。其後の二枚も同じ。山刀抜放て三  
 方より切くる。す。益怒り。其の殺生を。ごとく火を入。機  
 虫も同じ。物も。ん。行技。不。兼。て。仕。返。一。飯。茶。團。光。三。八。寸。の。刺  
 紐。成。果。を。扱。て。ま。向。ひ。二。人。成。射。人。不。切。結。行。内。流。の。真。我。と  
 極。や。上。之。極。不。法。我。流。の。山。城。も。平。ら。く。敵。得。た。怒。り。人  
 々。大。衣。油。衣。不。切。外。さ。今。今。人。の。ま。向。梨。割。も。ま。れ。二。三。を。つ。ら。後  
 死。し。る。不。ぞ。強。う。ア。不。付。ハ。ド。と。速。足。出。て。逃。れ。何。必。止。も。と。逃  
 り。多。不。思。の。足。跡。不。扱。ま。る。に。籠。上。蹠。を。踏。死。と。呼。ぶ。怒。持。と。し。て  
 大。他。人。溜。り。身。の。流。定。も。汲。り。る。そ。付。お。名。樹。木。の。落。下。す。十。五。六。人  
 然。を。り。出。お。り。ま。う。ろ。く。遂。不。十。花。と。あ。る。籠。も。等。質。ま。の。如。く。不。縛

う。う。の。啼。と。ま。し。く。浦。不。引。立。了。燈。の。名。空。座。へ。飛。い。う。石。の。程  
 へ。く。庭。の。面。も。引。居。り。る。十。花。の。益。志。の。齒。く。と。止。し。と。が。け。の  
 結。成。眼。も。ん。中。う。も。る。く。心。中。燒。が。と。く。眼。成。因。く。思。ひ。ら。る。い。や  
 する。我。等。見。方。形。ま。く。不。運。落。命。ち。う。や。又。中。り。く  
 人。も。不。引。也。母。の。病。不。此。世。公。去。我。と。媽。の。仇。の。所。在。不。尋。人。為  
 眼。難。幸。苦。して。流。刺。て。仰。り。あ。不。活。も。不。凍。く。を。甲。也。受。る。く  
 粗。不。款。不。回。り。も。不。尋。身。の。所。在。も。あ。ら。ず。也。遂。不。以。織。空。不  
 捨。の。方。し。成。然。他。の。居。す。公。又。も。半。天。神。も。孝。心。と。思。流。う。ま。り。る  
 地。海。も。我。く。と。捨。り。あ。ら。と。悔。く。款。と。て。五。條。も。列。衣。ち。ざ。れ。る。思。ひ  
 七。さ。し。る。嗣。子。の。候。然。主。被。丸。の。あ。不。結。く。是。様。不。覺。と。流。依。て。居  
 ころ。ころ。が。備。ふ。火。城。と。も。の。置。心。と。云。思。苦。る。ま。又。流。寄。く。何。更。と。と。思





渡丸屋住持録行編卷五

廿六



十卷  
賊盜  
みるころ  
の  
圖

渡丸屋住持録行編卷五

廿七













長門の権宗前編三二五

十九



往休身立金頭如老五







何と云ふ事とてこの中家の移り根又十花の持付く見居る  
あどあど子とて鏡成解耳根ふよのく切けくくと耳根なる  
十花大らふ候ひ婦が引給ふ四の巻之立居る先ん行事  
杖木成る集る席上を断とてんは然者成にけり下の織も酒  
不碎所て懸懸し妙を程ゆふ否船へ頼藉ころ依て嗣子  
る後のあはれふり成思をせ。例の事先へ接打て席上へ揚り燈丸  
が枕頭より歩くよりいりや風城人成殺し宝は在集り天宮  
忽ち只人うそとてあふ報ひ集るごとく呼り。等々あはれ力足ふ事と  
踏鳴しりれど。鏡成候物して服成用と記上人とてあはれ  
立ど丁と切る紐のわふ懸着席ふお居され。向うと仰る  
猿役が而ふらりと嚙付く。猿役是又猿役一記人とて

十花色足をうらうらと。発止し切刀の利刃をのりて  
の。替ふ所の着とんとらぬかとお笑ふは物なるに修連丸山  
煙。そゝ余の若も殺すに醒細軟るれは。席上の四所酒  
端あうり候ふ十花目かけ投付る着とて還ふおれしく肉成  
ふとふと又さうとて十花身とてうらうらと刀成電光の如閃  
の。息を休連丸山煙るんとて宗徳の者成てんじて矢成集  
十六市人切て替。も成負せしもあはれは十花もは酒の碎  
さめさめとて。さう候より付起ては持連んとては躰成。替余  
さう候。切居難居又又七人付ありれば。残奴原忍れて席  
もさうも成負るがう。そゝ成成と矢成連りて十花は。是近  
と燃残る。肥ねとて。成之下。行事成行杖とて替。嗣子







復讐言石見英雄録

全部

五十冊

此書三編まで作者各替まり四編以下廿九冊  
二家の多筆にて記す石見氏を以て通編  
活況の主人公とす勿論して於水堂の五傑と  
称する勇士の傳と附して由良殿の賊後討治天  
橋立の復讐を本願の作者の新案を費せり  
七編の結局を餘計の一卷あり八冊を以て一部とす

刀筆青砥碑

八冊

水鏡語の橋亭子の原稿を曲亭子翁の  
筆削せりその筆を以て叙る匠人名を叙録  
て愛妻於砥を殺し殺す奸夫偽二節を讀りて  
盜賊と誣言して殺さんとすを青砥藤綱が  
明断各々の罪を照して懲せる佳話妙案とす

靈本室の八巻

八冊

下野必良岡城主生聖の弟良平四郎團  
が忠心遠慮の事新平忠節が妖術妖術を教  
へる事良平を教へる事良平を教へる事

鎌倉年代圖會

五冊

我が朝鎌倉の創業より宗号親王の南向  
まゆふまで於て將軍五代の間の時事と委  
くまるとす

鎌倉大樹家譜

五冊

宗号親王鎌倉の幕府より累世執權様  
の心算の北條の二門及び後醍醐帝天下を  
平定しあふまでとす

武藏坊辨慶異傳

十冊

程中が水滸傳の面目を撰て變化する  
幾向みれば甚與ある小説なり

大内多々羅軍記

六冊

大内義隆の瑞春風流より慶長相良義隆  
俊智浪人服教を罪ふ隔れを妻を君と進

世俗のゆかりを傳ふる安於の安泰と尊  
れりく他より紙なり

繪本金花談

十二冊

同 雪鏡談

十二冊

同 二嶋英雄記

十冊

同 彦山靈驗記

十冊

同 龜山話

十冊

同 合邦辻

十冊

同 淺州靈驗記

十冊

同 金毘羅神靈記

十冊

同 誠忠傳

十冊

同 孝感傳

十冊

同 顯勇録

十冊

同 奇縁傳

十冊

同 忠孝美善録

十冊

同 伊賀越孝勇傳

七冊

同 檀之二葉

六冊



ひるひ 妖婦 生約の方 陶尾張宮野賢が  
大悪逆を正史に出入せる面白神史あり

### 近江縣物語

五冊

花山院の侍代あら上梅丸が全備の  
盗賊系保輔齋の本が残暴橋安世が  
女園生が真探安世が甥常く邪慾眩病の  
梅丸の鬼殺光緒は誦して城征伐  
の大將軍系保昌を助けて賊を平らげる  
近江掃部進み生の父母逢一佳話とてその  
文の妙あり

### 昔語松虫墳

六冊

建武の以侍小所於野の勇士野田太郎海軍  
の武勇掛子とて掛子好海軍軍本太  
悪交田勝美義里と聖田の娘本海軍ハダ妻  
松女が狂本海軍本津和郎の娘女本太孝心  
松虫墳

### 今昔二牧繪州紙

六冊

天文の頃とよ播磨國赤松の城主別所長宗の殿  
菴崎共々天子の御方とて火事山鹿松の  
遠原の御方とて松三郎丸尾門が好色とて高  
村の御方とて義直とてはる話とて興あり

### 忠孝貞婦傳

六冊

大庭伊織信濃八股田阪右勝門が女計り中ら  
て自室一妻の里屋とて謙生田對助が貞烈  
忠勇とて免を雪たる事あり

### 復讐言十丈松

七冊

近江の士松井逸舟流人藤村大虎小欺枝  
れを争ふ兩人多年冤家を宥ひ青柳佐市  
といふ大いしく阿波の備村とて志とて遠い信

### 忠孝人龍傳

五冊

奥州山白屋の長條條三郎右勝門とてその  
十田民助を欺死して松田伊織に斬せし  
田夫婦と民助が子民助が長條三郎に冤魂  
民助が廢子民五郎といふ童に憑りて復讐を  
させし事を撰せり

### 北野 二葉花格

六冊

賊の女賊池上七九帝が克忍の孝子  
菊女と上田と二郎が復讐の小説とて悪  
年若見三之丞とて侯の老人を敵とて  
を撰りしもの

### 報然 十かえ玉花

六冊

建久年中や出羽の山縣の御士常盤井内記  
則則二男龍二郎美人仙御と誘れて教  
け後年諸事を助けて父の仇を山伏山小討  
仙女来見と昇天と奇談とて

### 補家 弥生佐久子燈

六冊

彌生の良長越地左近衛を克生とて佐久子  
御家の御子とて御子御子御子御子  
御子を除く又佐田の御子御子御子御子  
御子御子御子御子御子御子御子御子  
御子御子御子御子御子御子御子御子

### 花標因縁車

五冊

小幡半生勝とて小金と彦助と勝とて金  
と迷煩悩の常念法師かた下の家の因縁と  
怪くある

### 五捨頭

五冊

三光の禰の身を王とて活説とて野  
高井土の呉服とて勝美とて再會  
と上方とて百とて拵とて三百とて金  
と撰りし路指針とて強盜とて



筑前の士人東條因書幼年して父助を  
夫が仇山中壯二郎を年久多く伺ひ探り後  
小和州郡山より復讐せし事案と添い  
て尋常の借奇事紙と云ふあり

南部 小栗忠孝記 五冊

敵討 小栗忠孝記 五冊  
奥州南総の士竹内新吾月藩の士  
小栗毛平と従ひ宿願人として討殺せし  
小栗が復讐助終ふを控極と云ふ得る  
阿波を小栗の妻を告知して小栗  
子二郎小栗の父の仇を討せし事案あり

長崎聞見録 五冊

理齋隨筆 六冊  
和漢の雜事所をたどり載せられたる世に  
益鮮也

見聞 千辛万苦の心算と書かれたるの大半は  
飯盛内膳の事と云ふ女情を計し金と  
換へる危難を免れし事案あり

金屋金五郎全傳 五冊

浪花堀江の市人金五郎が風情ありて氣使  
る南妓額の小三が情実の據をむべたしと被  
半時渭た腐門の癖性の可い大い後日本情  
溢る事ありて郷人たるの事あり

輪廻物語 五冊

安倍仲麻呂吾海大匠本の流唐より安名と  
萬葉の事と明海海からあつた事と俗説の  
終る故といひ張本と海陽陸陽兩方乃  
程を附合し小説義唐より架空の結構  
和漢の史外あり事話といふ

風流茶人氣質 五冊

# 繡像復讐山石見英雄録 全部 五十冊

南海 玉藻主人 編輯  
浪花 一葉富歌川芳梅画

○初編 系師人作 ○二編 玉藻主人嗣著 ○三編 夏湯子嗣著 ○第四輯以下作者一家  
永禄天正の頃流石名嶋の勇士岩見重太郎橋種季が生さちあり武者修初  
せし世の武功大蛇の害を除き老狸の妖を糺めり勇威を始め後子天の橋を築き  
廣瀬成瀬大川亦三人の大敵を掃て父兄の怨恨を晴し後小室町殿の奉仕に任官  
し鈴木水正に敵愾れるを同じ言聖奉豪が女は邪淫婦 岩瀬孝女新月亦あり  
給し黨の五雄と称する勇士の列傳靈猿惡魚の怪談亦五輯あり益入佳境新話あり

南久寶寺町心齋橋水入

浪花書肆 伊丹屋善兵衛板



